



くすのき



令和4年(2022年) 7月13日

文責:校長

1学期をふりかえって

～保護者の皆さま～

春にスタートした令和4年度もあっという間に1学期を終えようとしています。1年生にとっては初めての終業式です。4月の始業式の際に子どもたちには「一年間、毎日を大切に過ごしてほしい」と伝えました。ご家庭ではいかがでしたか。学校では一人ひとり、学習やさまざまな行事を体験しながら、友だちと協力して頑張り、たくましく成長したことと思います。毎朝お母さんに手を引かれて泣きながら登校していた子が、今ではお友だちと手をつないで元気に笑顔で登下校しています。「一步前進」です。子どもたちがそれぞれ自分たちのスピードで歩む姿を、引き続きまわりからしっかりと見守っていきたいと思います。

いよいよ夏休みです。各ご家庭で子どもたちが生活のリズムを崩さないよう「早寝・早起き・朝ごはん」をしっかり守って毎日が充実したものになりますようよろしくお願いいたします。



～志津小学校の皆さん～

長い夏休みは日ごろ、時間をかけてできないことに取り組めるだいじな時間です。「したい」と「しなければいけない」ことを両方しっかりがんばりましょう。いっ

ぱい遊びたければ、宿題や家のお手伝いなどやるべきこともしっかりやりましょう。マンガや新聞も含めてたくさんの「文字」を読むこともおすすめします。いろんなスポーツに挑戦するのもいいでしょう。楽しい思い出をつかって、2学期に先生方に聞かせてください。楽しみにしています。



「待つこと」のしんどさと大切さ

前述したように、子どもたちはそれぞれ自分たちのスピードで成長します。教室に35人いれば35とおります。大人が先に手助けしてしまったり、あしなさい、こうしなさいと、口をはさんでしまうと子どもは自ら考え、判断し、行動する機会を奪われてしまいます。もちろん一日の生活の中で、危険な行為や自他を傷つけるようなことがあれば、叱ることもあります。しかし、ただ私たち大人が自分の感情に任せて強く説教しても、子どもたちはただ委縮して大人の感情が鎮まるのを待っているだけ、ということが多いのです。これは「教育」でも「しつけ」でもありません。1年生から6年生までその発達段階に応じて、時間とタイミングは異なりますが、子どもたち自身が自分の言葉で「何が悪かったのか(つらかったのか)」「どうすればいいのか」等、話せるよう待つ機会をつくってあげてください。それ

はいずれ必ず、子どもたちが成長していく中で「自立」するために必要な経験であると思います。子どもたちのスピードや都合に合わせて待つことは、保護者にとっても、教師にとっても楽なことではありません。疲れるし、怖いことです。今よりも少し先の子どもたちの姿を思い描きながら、学校で、家庭で、地域で子どもたちが自分の足で歩む姿を見守っていききたいものです。



そろばん名人 ここにあり

6年4組の山際昊輝さんが、このたび8月の「全国珠算選手権大会」に滋賀県代表として出場することが決まりました。たいへん名誉なことです。普段の力をしっかり出せるようみんなで応援しています。頑張ってください。

